

### (3) 国営アルプスあずみの公園

#### ①公園の概要に関する事前説明

##### ア) 整備経緯と概要

- ・平成2年の事業採択から平成4年の用地買収着手、平成10年の起工式を経て、平成16年7月に堀金・穂高地区の一部(約27ha)、平成21年7月に大町・松川地区の一部(約79ha)が供用開始された。
- ・平成28年6月に全園開園され両地区合わせて353haが共用されている。
- ・長野県中西部に位置し、堀金・穂高地区と大町・松川地区は約15km(車で約30分)の距離がある
- ・穂高・堀金地区(253ha)は安曇野総合体験パークとして里山を中心としたエリアで、安曇野地域を知る入門編としての位置づけ、大町・松川地区は自然体験パークとして森林を中心としたエリアとなっている。
- ・開園時間は、11月、12月、1月は16時まで、7月、8月は18時まで、その他は17時までとなっているが、夏と冬のイルミネーション開催期間中はエリア限定で21時までの延長開園を行っている。

##### [穂高・堀金地区]

###### 「田園文化ゾーン」

- ・田園文化ゾーン(約47ha)はガイドセンターや公園管理センターのある穂高・堀金地区の中心エリアとなっている。
- ・特にあずみの学校では、環境共生時代を担う人材の支援・育成を図るためのさまざまな体験学習活動の拠点施設となっている。
- ・あずみの学校は学校の校舎をモチーフにインテリアが設けられており、「社会科教室：かまどで炊いたお小昼、そば打ち体験ができる」「理科教室：安曇野の清流の魚を観察したり、動植物を学ぶ」「芸術教室：季節ごとの自然素材を利用したクラフト体験」「観察室：北アルプスや安曇野の景色を気球に乗った気分体験」がある。

###### 「里山文化ゾーン」

- ・里山文化ゾーン(約49ha)は里山の森づくりエリア他、棚田エリアなど計4エリアに分けられている。
- ・当ゾーンは平成23年4月から放送されたNHKの連続テレビ小説「おひさま」の撮影舞台となったこともあり、一部撮影セットとして利用された農家風のあずまやも公園施設として改修、利用している。
- ・棚田は農水省の米の生産調整の制限から、4枚分のみ生産を行っている。
- ・上記の用件に加え、棚田の面積も大きく、さらに用地買収時に水利権を放棄した経緯もあり、全ての棚田を水田利用することは困難である。
- ・その他の棚田は花修景(菜の花やそば)等に利用している。
- ・山林の部分は自然保護の地区となっており立入禁止をしているが、サルやクマの被害が増えていることから、地元との協力により電気柵を設ける対応を図っている。

### [大町・松川地区]

- ・Ⅰ期開園エリア：センターゾーン、林間レクリエーションゾーン、保全ゾーン、Ⅱ期開園エリア：溪流レクリエーションゾーン、Ⅲ期開園エリア：自然体験ゾーンに分かれる。
- ・Ⅰ期エリアは、大町・松川地区の中心エリアになっており、インフォメーションセンターの他、林間レクリエーションゾーンや保全ゾーンがある。保全ゾーンは堀金・穂高地区と同様サルやクマの被害が多いため電気柵の対応を図っている。
- ・Ⅲ期エリアのマウンテンバイクパークは、4月下旬～11月末日までの土日祝日（GW、夏休み期間は平日も開園）に利用可能となっており、平成29年度は試験的に毎月第3水曜日を開園している。
- ・利用料金は入園料を支払えば無料で利用することができる。
- ・レンタルバイク（幼児用は無料、子ども用、大人用は300円/時間）も有り、ヘルメットなどの防具のレンタルは無料で貸出を行っている。
- ・自転車の購入は当初は公園事務所で購入したが、メンテナンスや更新などはレンタル料を使用している。自転車の利用形態から耐用年数が少なく2年程度使用すると更新となる。
- ・コースは林間の広いコースとなっており、比較的初心者からも利用できる設定がされている。そのため骨折などの大怪我なども発生はない。（怪我等の事故については自己責任としている）

### イ) 利用の状況

- ・平成28年度両地区の公園利用者は43.5万人である。（堀金・穂高地区：27万人、大町・松川地区：16.5万人）
- ・NHKの連続テレビ小説「おひさま」の放送があった平成23年度が過去で最も来園者数が多く、52.3万人であった。
- ・平成28年度に開園した里山文化ゾーンは、平成28年度0.7万人弱が平成29年度の9月末段階で1.2万人の利用者があった。利用者増については菜の花やひまわり迷路などマスコミでの紹介があったことが大きいと考えられる。
- ・平成29年度に来園者の累計が500万人を達成し、その際は里山文化ゾーンで収穫した米1俵が贈られた。
- ・2地区での利用者数層については、堀金・穂高地区は花修景が多いことから年配層の利用が多く、大町・松川地区はマウンテンバイクなどのレジャー系が多いためファミリー層の利用が多い。両地区の利用者層の違いが反映している。
- ・両地区を利用する利用者の割合は全体の4%～7%程度（年間18,000人程度）であり、特にイルミネーションのシーズンの両地区利用が多くなっている。
- ・今年度行ったアンケート調査では2日間の連続利用する利用者も多く、2日チケットの要望意見が多かったため、今後検討を行っていく予定である。

- ・年間を通じての利用者数については、春の花修景が行われるゴールデンウィークが最も多く、従来1回のみで開催であった「アルプスあづみのセンチュリーライド（AACR）」は年々参加者が増加し、参加が難しくなっていたため、平成29年度より4月、5月の2回開催に変更した。参加者は県外からが全体の9割を占めており、そのほとんどが2泊の宿泊での滞在となっている。
- ・平成29年度のゴールデンウィークの入園者数はAACRの2回開催（各回1,500人、計3,000人の参加）により両地区共に過去最高を記録しており、平成28年度から約1.4万人増加している。
- ・次いで、サマーイルミネーション（穂高・堀金地区）が開催される8月が多くなっており、その他ニジマスのつかみ取りやスプラッシュリバー（その北アルプスの溪流・乳川での川遊び）が開催されている。
- ・インバウンド利用については、平成28年7月からの数字で355人（両地区）、平成29年の上半期で229人となっており、全体から見てもほんの少数のみである。そのため公園の利用実態調査でのインバウンド利用については当公園については実施をしないこととした。
- ・貸出しているマウンテンバイクの耐用年数は、修理費用を勘案すると約2年である。貸出回数は4月～11月の土日とゴールデンウィーク及び夏休み期間で、平成28年度で7,900台回、平成29年度は9月までに7,300台回の実績があった。

## ウ) 管理・運営の状況

- ・2地区のスタッフの配置状況は以下の通りとなっている。  
堀金・穂高地区：常勤12名／非常勤16名 計28名  
大町・松川地区：常勤11名／非常勤12名 計23名
- ・センター長を含めた課長以上の職員については両地区の兼務となっており、大町・松川地区には施設課長と分室長が配置されている。
- ・2地区の情報交換や調整については、月に1度幹部会（管理職会議）が行われる他、管理・植物課についてもそれぞれ会議が開催されている。
- ・また、年に1度（休園日）全てのスタッフが集まる会議を行い、職員研修や情報交換を行っている。
- ・2地区に分かれる公園のデメリットについては、またがる市町村が多くなり事務的な調整など煩雑になることもあるが、2地区を同一団体で管理することのメリットのほうが多い。
- ・メリットについては、両地区での予算の配分やスタッフの配置など物的面において融通が効く点大きい。
- ・里山文化ゾーンの棚田の利用については、「ミノムシ会」に委託し、草刈り等の管理は造園会社に委託をしている。

- ・イルミネーションの開催は委託費で運営を行っており、入園料のみで無料で見ることができる。準備は、特殊な部分については専門会社に委託をしているが、軽作業などはシルバー人材センターを活用している。
- ・平成 31 年には都市緑化フェアのサブ会場として当公園が指定されており、自転車イベントを開催する予定である。イベントを通じて自転車の普及と延泊の促進への取組を行っていくこととしている。
- ・両地区において課題となっているサルやクマの被害については、サルはチューリップの球根を食べたり、イルミネーションのコードを食いちぎったりなどの被害がある。クマの対応については地元と連携して出没したクマを捕獲しタグを付けて管理を行っている。
- ・年度当初にイベント情報チラシを作成し、観光関連のエージェントや教育関連の団体に対する営業を行っている。売り込みの営業企画は、当年については 2 月の下旬に、9 月には次年度の計画を行っている。一般向け・教育旅行向け・(一社) 長野県観光機構、日本アルプス観光連盟に売り込み営業を行っている。

## エ) 地域連携

- ・サイクリングイベントであるアルプスあつみのセンチュリーライドでは、地元住民と協力し、園内で水分、食べ物の補給地点を運営している。
- ・農家民泊と公園・周辺体験施設利用として、農家への宿泊の間に公園プログラムや地域のラフティングを織り込んだスタイルを構築し、地域資源を活かした周遊プログラムを構築している。(平成 24 年度は 1 校 39 名…受入農家数 15 軒の参加が平成 28 年度は 3155 名…受入農家数 65 軒にまで増加している。
- ・その他、周辺宿泊施設とセットにした気球搭乗体験や外国人利用者向けのそば打ち体験など、外国人観光客の誘致促進のためのプログラムを提供している。
- ・北アルプス国際芸術祭(平成 29 年: 6/4-7/30) では、当公園が会場の一部として利用され、伝統芸能「奉納太鼓」の演奏や「空のポスト(約 700 人の参加)」「キリュウダマ」のワークショップが開催された。
- ・陸上自衛隊との協定により災害時の後方支援拠点利用や、地域の照合意識の啓発のための「消防フェスタおおまち」の開催により市民の防災意識の向上を目的として、消防車の展示や援助体験小屋の消化実演、防災体験などを開催。
- ・「さとやま楽校」では各教室での専攻の後、さとやま発展講座を経て、地域との連携として環境リーダー、安曇野ガイド、クラフトゲート匠の杜、里山育成ボランティア、スローフードの達人として活動を行っていくプログラム内容となっている。
- ・公園でのボランティアについては現在 40 名程が活動しており、自然体験やおりおりエンターリングなどの活動を行っている。
- ・外国人向けには、パンフレットを作成している日本アルプス観光連盟に情報を載せてもらっている。

## ②ヒアリングのまとめ

- ・国営アルプスあづみの公園は、平成2年の事業採択から平成4年の用地買収着手、平成10年の起工式を経て、平成16年7月に堀金・穂高地区の一部（約27ha）、平成21年7月に大町・松川地区の一部（約79ha）が供用開始、平成28年6月に堀金・穂高地区の一部の整備完了をもって全園開園、両地区合わせて353haが共用されている。
- ・堀金・穂高地区と大町・松川地区は約15kmである。
- ・穂高・堀金地区（253ha）は安曇野総合体験パークとした里山を中心としたエリアで、安曇野地域を知る入門編としての位置づけ、大町・松川地区は自然体験パークとして森林を中心としたエリアである。
- ・平成28年度両地区の公園利用者は43.5万人である。（堀金・穂高地区：27万人、大町・松川地区：16.5万人）
- ・両地区を利用する利用者の割合は全体の4%～7%程度（年間18,000人程度）であり、特にイルミネーションのシーズンの両地区利用が多くなっている。
- ・平成28年度に開園した里山文化ゾーンは、平成28年度の0.7万人弱から、平成29年度の9月末で1.2万人に増加しており、利用者増については菜の花やひまわり迷路などマスコミでの紹介があったことが大きいと考えられる。
- ・インバウンド利用は、平成28年7月からの数字で355人（両地区）、平成29年の上半期で229人となっており、全体から見てもほんの少数のみである。
- ・1公園が2地区に分かれる公園のデメリットについては、またがる市町村が多くなり事務的な調整など煩雑になることもあるが、2地区を同一団体に管理することのメリット（予算の配分やスタッフの配置など物的面において融通が効く点）のほうが多い。
- ・2地区の情報交換や調整については、月に1度幹部会（管理職会議）が行われる他、管理・植物課についてもそれぞれ会議が開催される。
- ・公園に関する公報については、年度当初にイベント情報チラシを作成し、観光関連のエージェントや教育関連の団体に対する営業を行っている。売り込みの営業企画は、当年については2月の下旬に、9月には次年度の計画を行っている。一般向け・教育旅行向け・（一社）長野県観光機構、日本アルプス観光連盟に売り込み営業を行っている。
- ・地域連携については、サイクリングイベントであるアルプスあづみのセンチュリーライドで、地元住民と協力し、園内で水分、食べ物の補給地点を運営している。
- ・農家との連携により、農家民泊と公園・周辺体験施設利用として、農家への宿泊の間に公園プログラムや地域のラフティングを織り込んだスタイルを構築し、地域資源を活かした周遊プログラムを構築している。（平成24年度は1校39名…受入農家数15軒の参加が平成28年度は3155名…受入農家数65軒にまで増加している。
- ・その他陸上自衛隊との協定により災害時には後方支援拠点として利用されることになっている。



<視察状況：堀金・穂高ガイドセンター>



<視察状況：同左 里山文化ゾーン>

図表 1-8 アルプスあづみの公園 各地区平面図（穂高・堀金地区）



出典資料：アルプスあづみの公園 ガイドマップ（穂高・堀金地区）

図表 1-9 アルプスあづみの公園 各地区平面図（大町・松川地区）



出典資料：アルプスあづみの公園 ガイドマップ（大町・松川地区）

図表 1-10 説明資料 1

### 日本の屋根・北アルプスに発する清流に育まれた田園地帯

3000m級の山嶺が連なる北アルプスの麓に広がる安曇野地域に位置する国営アルプスあづみの公園。北の大河・松川地区は、乳川が形成した扇状地(標高690～890m)上に広がる豊かな森林エリアに位置し、南の信金・穂高地区は、黒川が形成した扇状地(標高620～730m)上に広がる田園エリアに位置しています。両地区とも10%未満の扇状地が公園の大部分を占めています。またニホンザルやニホンカモシカ、ツキノフグといった大型哺乳類が確認されるなど、針葉樹域内に生息する動物は多岐に及んでいます。

**大町・松川地区(253ha) 安曇野総合体験パーク**

日本を代表するアルプスの山岳景観につながる優れた自然環境を保全しながら、その自然環境を学び、体験し、参加できる拠点として、5つの形質あるゾーンで構成される公園として計画。

▲大町・松川地区

**信金・穂高地区(100ha) 安曇野入門体験パーク**

矢のつたつたある安曇野の田園風景を保全・復元し、いつでもその景観にふれたい、防災訓練という地域の自然変化を垣間見て体験できる拠点として、2つの特色あるゾーンで構成される公園として計画。

▲信金・穂高地区



## 国営アルプスあづみの公園

ALPS AZUMINO NATIONAL GOVERNMENT PARK

### 事業概要



### 交通のご案内



**大町・松川地区**

国営アルプスあづみの公園



**信金・穂高地区**

国営アルプスあづみの公園



**大町・松川地区**

国営アルプスあづみの公園

**自動車ご利用の場合**

長野自動車道松本南ICより約4.0分  
 信濃自動車道大町南ICより約7.0分  
 信濃自動車道大町南ICより約1.5分  
 長野自動車道大町南ICより約2.0分  
 JR大糸線穂高駅・大町駅より徒歩約15分

**大町・松川地区** TEL 0261-21-1212 (代)  
**信金・穂高地区** TEL 0263-71-5511 (代)



**国土交通省関東地方整備局 国営アルプスあづみの公園事務所**

T 399-8305 長野県安曇野市穂高 1-19-12 TEL 0263-833-8671 (代) FAX 0263-831-8675

URL <http://www.azumino-koen.jp/>

# 安曇野の自然と田園文化、北アルプスの山岳景観を活かした公園づくり

**公園の理念** 自然と文化に抱かれた豊かな自由時間活動の実現  
～自然の中で感性を育む 遊・創・空間～

## 基本方針

生物多様性に富んだ自然環境との共存を目的とした保全活動や啓発活動の推進

公園の運営・管理運営において、地域、企業、利用者など、様々な立場、多様な世代からの参加を促進

日本を代表する自然環境の中で、安曇野の自然環境との共存を目的とした保全活動や啓発活動の推進

第一級の山岳景観と雄大な田園景観が一体となった安曇野地域の景観及びこれに基づく豊かな風土文化の保全と創出への貢献

公園が地域資源を創出の拠点となることにも、自然環境を保全し、地域活性化を促進

## 整備方針 5つのポイント

人にも環境にもやさしい公園をめざして…

## 1 環境問題への対応

人と自然との共存をめざして

自然環境に負する公園整備の根本的考え方となる「国際アルプスあづみの公園自然環境保全方針」を作成し、様々な自然環境を多様な方法で保全し、かつ遊学活動などの市民活動の場として活用すること等により環境問題への対応を進めます。



## 2

### 市民参加による公園づくり 市民と協働で公園の魅力アップ

公園のさまざまな情報は、地域の人のイベントへの参加を通じて、市民参加の公園づくりを促進します。また公園の魅力を高めるため、奇想天外なアイデアの提案や、市民参加のイベントを開催し、公園の魅力アップを図ります。



## 3

### 高齢者・福祉社会への対応 誰もが快適に過ごせる公園空間

高齢者、障がい者等に本公園を安全に安心して利用してもらうために、公園施設の改善や、公園スタッフのサービスの充実、わかりやすい情報発信等を行い、ユニバーサルデザインの観点から公園を充実させます。



## 4

### 周辺地域の景観保全への対応 日本の原風景を次代に引き継ぐ

近郊安曇野地域では、日本を代表する田園景観、自然環境の単年が課題となっています。本公園内に今日まで維持されている田圃や樹林帯の良好な景観を保全し、安曇野地域の景観形成に寄与します。



## 5

### 広域レクリエーション需要への対応 安曇野地域へのエントランス機能

広域レクリエーション機能として国内外から、ドライブ、観光客の増加、イベントの開催など、様々な需要が増加しています。本公園でもこのような需要に対応して整備を行います。



### 事業の経緯

平成 2年 4月	事業発足
平成 2年 7月	基本計画策定
平成 2年 11月	暫定計画策定(156ha)
平成 3年 2月	暫定計画策定(253ha)
平成 4年 2月	用地取得着手
平成 5年 4月	建設費7/25にあつたの公園工事費概算算定
平成 6年 3月	暫定計画策定(100ha)
平成 10年 10月	竣工式
平成 16年 7月	安曇野地区第一分団(1027ha)
平成 21年 7月	大町・北川地区第一分団(1079ha)
平成 23年 9月	大町・北川地区第二分団(1025ha)
平成 26年 4月	安曇野地区第二分団(1077ha)
平成 28年 6月	全園開園(353ha)

# 大町・松川地区

樹林が広がる「大自然へのエントランス」

供用面積253ha



水す (むつこ)

## ① 川遊び・乳川河原エリア

乳川河原は清流の川遊びの場として、夏の間は多くの家族連れが訪れる人気スポットです。



## ② スポーツと遊びの森エリア

自然豊かな森の中で、様々なスポーツや遊びを楽しむことができます。



## ③ リフレッシュの森・清流エリア

清流の音と緑の森の中で、心身をリフレッシュさせることができます。



## ④ みんなの森づくりエリア

地域住民と協力して、自然豊かな森づくりを進めています。



## E. 自然体験ゾーン (Ⅲ期整備エリア)

北アルプスの山々から流れ出る清流を堪能できる。その清流に育まれた水辺の楽しみ、森の中のスポーツや遊び、様々な自然体験プログラムを提供し、環境を保全しながら、より自然の自然に近づける人材育成に貢献するゾーン。

## ⑤ 河畔探訪エリア

豊か川や乳川、森の広葉樹を堪能しながら、水辺の探訪を楽しむことができます。



## I 期間別エリア

### A. センターゾーン

北アルプスの山々の雄姿を一望できる。自然の雄姿を堪能できるゾーンです。



### B. 自然体験ゾーン

清流の音と緑の森の中で、心身をリフレッシュさせることができます。



### C. スポーツゾーン

自然豊かな森の中で、様々なスポーツや遊びを楽しむことができます。



## II 期間別エリア

### B. 自然体験ゾーン

清流の音と緑の森の中で、心身をリフレッシュさせることができます。



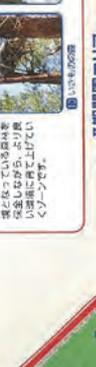
### C. スポーツゾーン

自然豊かな森の中で、様々なスポーツや遊びを楽しむことができます。



### D. 自然体験ゾーン

清流の音と緑の森の中で、心身をリフレッシュさせることができます。



### E. スポーツゾーン

自然豊かな森の中で、様々なスポーツや遊びを楽しむことができます。



### F. 自然体験ゾーン

清流の音と緑の森の中で、心身をリフレッシュさせることができます。



### G. スポーツゾーン

自然豊かな森の中で、様々なスポーツや遊びを楽しむことができます。



### H. 自然体験ゾーン

清流の音と緑の森の中で、心身をリフレッシュさせることができます。



### I. スポーツゾーン

自然豊かな森の中で、様々なスポーツや遊びを楽しむことができます。



## II 期間別エリア

### C. 自然体験ゾーン

清流の音と緑の森の中で、心身をリフレッシュさせることができます。



### D. スポーツゾーン

自然豊かな森の中で、様々なスポーツや遊びを楽しむことができます。



### E. 自然体験ゾーン

清流の音と緑の森の中で、心身をリフレッシュさせることができます。



### F. スポーツゾーン

自然豊かな森の中で、様々なスポーツや遊びを楽しむことができます。



### G. 自然体験ゾーン

清流の音と緑の森の中で、心身をリフレッシュさせることができます。



Ⅲ期エリア空中写真



